

SDGs スタートアップ研究分科会・2021 年度ベーシックコース第 3 回実施報告

2022 年 2 月 18 日

PMI 日本支部

SDGs スタートアップ研究分科会

分科会代表 稲葉 涼太

去る 2 月 18 日(金)、SDGs スタートアップ研究分科会のベーシックコース第 3 回の会合を開催しましたのでご報告いたします。

1. 2021 年度 SDGs スタートアップ研究分科会の概要

■ 【SDGs スタートアップ研究分科会とは】

PMI 日本支部は、SDGs 達成プロジェクトを効果的に軌道に乗せ推進する方法の開発・普及を図るために、2019 年 10 月から内閣府「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」に「SDGs スタートアップ研究分科会」を設けています。

2020 年度より SDGs プロジェクトのマネジメント手法を学ぶ「ベーシックコース」と、実際に事業として行っている SDGs プロジェクトを支援する「アドバンスコース」の二本立てで実施しております。

A) ベーシックコースについて

SDGs が社会に浸透し、「Why SDGs?」と「What is SDGs?」が提唱される機会も増えました。SDGs を絵に描いた餅にしないために実際に SDGs を事業として推進することが大切です。

しかし、SDGs 事業の取り組みを始めようとしても立ち上げ推進が中々効果的にできていないという課題認識を私達は持っています。

「How to Achieve SDGs」のために SDGs 事業に即したプロジェクトマネジメント手法である『SDGs スタートアップ方法論』を研修・ワークショップ形式で体得できるコースです。

毎年度、企業・自治体・学校・非営利法人等多くの多様なバックボーンを持つ団体が参加し、3 年間で 70 団体以上の法人に研修・ワークショップを提供しています。

今年度も 10 月、12 月、2 月の計 3 回の分科会を開催しました。

B) アドバンスコースについて

アドバンスコースは原則として昨年度のベーシックコースに参加された団体で実際に実行されている SDGs プロジェクトを対象として伴走型の PM 支援を行います。

今年度も、企業・教育機関・非営利法人における実際の SDGs 事業の支援を行っています

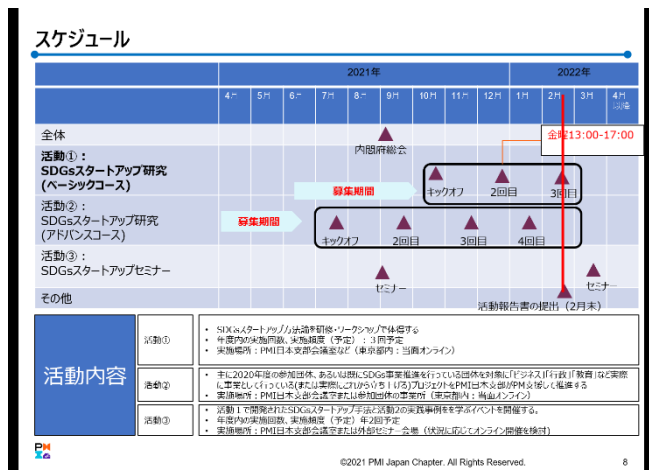


図1 SDGs スタートアップ研究分科会のスケジュール

2. 第3回分科会概要

- 開催日時：2022年2月18日（金）13時00分～17時00分
- 会場：オンライン(ZOOM)

当日の概況：

新型コロナ禍の中、引き続きオンライン開催となりましたが、多くの地域から多様な業種の20名近い方々に参加いただきました。

当日のアジェンダは以下。

1. イントロダクション
2. チェックイン
3. 講義
 - ベネフィットリスト作成手順
 - ベネフィットリストが必要な背景：ESG やコレクティブインパクト
4. ワークショップ：ベネフィットリスト作成①②
5. ふりかえり
6. 各種アナウンス

第3回のテーマは「ベネフィットリスト」というPMI日本支部のオリジナル手法です。SDGs事業がもたらすベネフィットと受益者を明確にし、事業評価を定量的に行い、事業が上手くいっているのか改善や方向転換の必要があるのかを検証するとともに、ステークホルダーへの報告とコミュニケーションを行うためのツールです。今年度は昨年からコンテンツとツールを大きくバージョンアップしました。

ロジックモデルで策定した事業のアウトプットの活動評価と、アウトプットが実現するアウトカムの成果評価を可視化し素早く検証できるようにすることで、事業が上手くいっているのかそれとも見直しが必要か、見直す場合どのようなカイゼンやピボットが必用かを考えることができます。

そして、アウトプットとアウトカムが各ステークホルダーにどのようなベネフィットをもたらすかを可視化することで、事業の「目的」に対して事業の「活動」と「成果」が整合していることを検証できます。

また、SDGsの事業を行うためには組織単体ではなく異なる組織でインパクトを集めて創発するコレクティブインパクトの話も講義の中で触れましたが、コレクティブインパクトを実現するにはより透明で正確性のあるコミュニケーションが信頼構築の上で重要です。コミュニケーションを行う上でも定量的な評価は大事でそのためにも、ベネフィットリストが有効であると考えます。

第1回講義にてリーンキャンバスでSDGs事業コンセプトを可視化した後、第2回でSDGs事業のロジックモデルを策定し、第3回で目標の設定と評価を行い、軌道修正をしながらSDGs事業を推進するアジャイルなアプローチを体得する研修三部作でした。

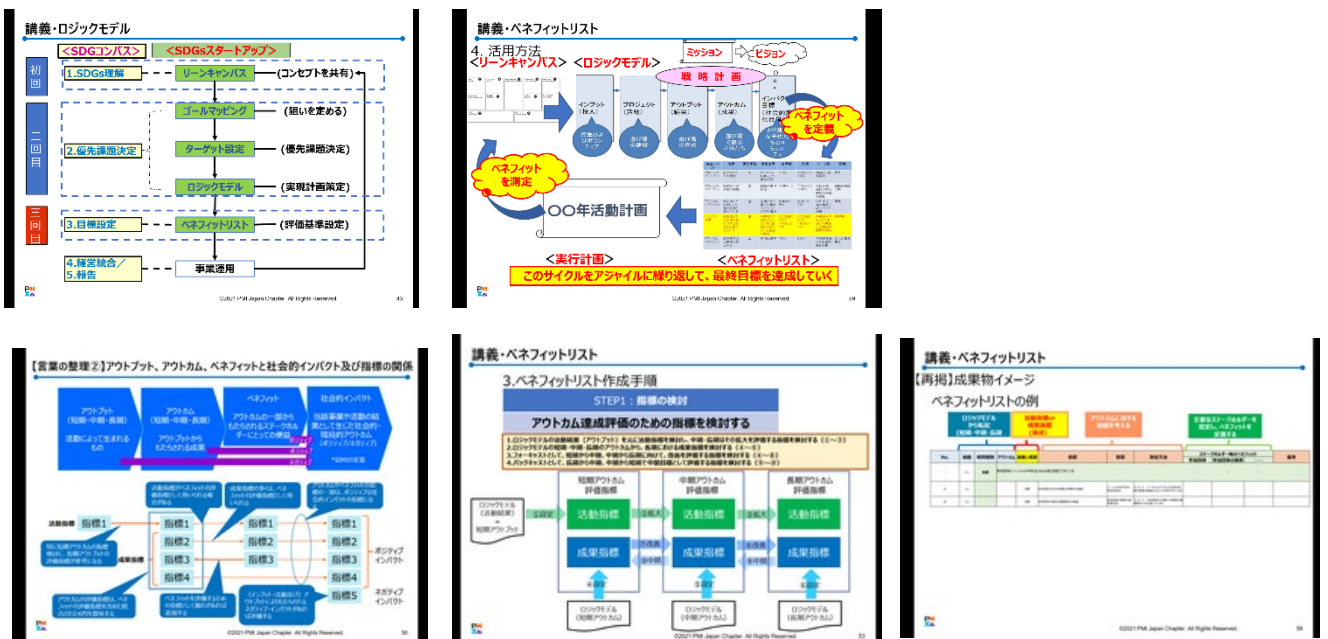


図2 講義資料

後半のワークショップでは PMI 側がロールプレイ用に用意した、マルチステークホルダー型の仮想 SDGs 事業シナリオ元に以下のワークを進めました。

- ① アウトカム達成評価のための指標を検討する
- ② 指標の目標及び測定方法を検討する
- ③ 各アウトカムが価値提供する「主たる顧客」を検討する
- ④ 「主たる顧客」に対する価値提供（ベネフィット）を検討する。

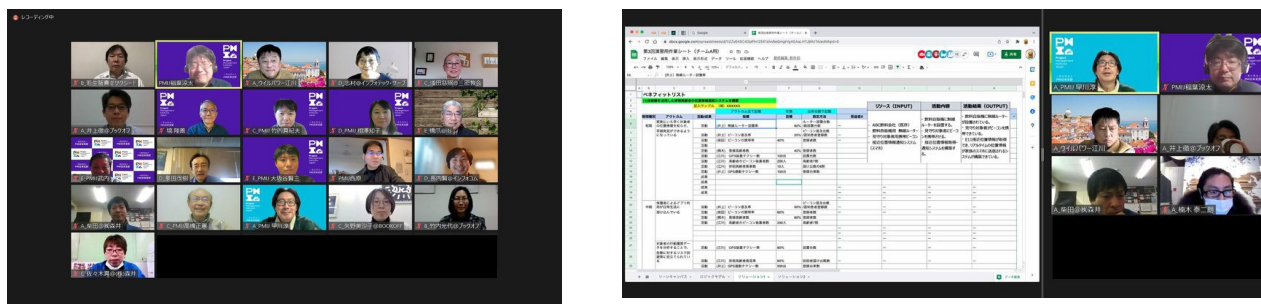


図3 ワークショップの様子

ベネフィットリストを作成したあと、YWT というふりかえりフレームワークを用いて全3回の分科会のふりかえりを行いました。

参加団体の方から、全3回を通じたフレームワークや方法論が SDGs 事業を行う上での有効性や、「自社でも普及させたい」「実事業で活用したい」「自社の社長を巻き込んでこの方法論を使いたい」「参加者を受け入れてくれる環境がすばらしくて参加するのが楽しかった」などの声をいただきました。

3. 今後の活動予定

2022/3/12(土)に、2021年度の分科会の集大成として「SDGs スタートアップセミナー」を開催します。

定員100名で用意していましたが、本記事の作成時点でお申し込み200名を超えています。大幅に増員設定しましたのでご興味ある方はご参加いただけますと幸いです。

参加無料
SDGsスタートアップセミナー
～SDGsを学んだあとの
SDGs実践に向けて～
2022年3月12日(土) 14:00～17:00

主催:PMI日本支部 SDGsスタートアップ研究分科会
後援:内閣府 地方創生 SDGs官民連携プラットフォーム

【セミナー概要】

- 日時：2022年3月12日（土）14時00分～17時00分（参加無料）
- 会場：オンライン（ZOOM）
- 主催：PMI日本支部
- 主な内容

【講演】

- ・ 稲葉涼太：PMI日本支部 SDGs スタートアップ研究分科会 代表
 - ◇ 『SDGs スタートアップ方法論』の提唱
- ・ 藤村 新：クラスメソッド株式会社 CX事業本部 グローバル事業部 部長
 - ◇ リーンスタートアップ実践者によるSDGs事業立ち上げ支援の取り組み
- ・ 江川 健次郎様：有限会社ウイルパワー 代表取締役
 - ◇ 埋もれている地域資源（人・モノ・思い）の価値を創出する“サーキュラーエコノミー”の実践
- ・ 浅田 慈照様：高野山真言宗 大師教会和歌山教区 三密教会長
 - ◇ 「今・ここ・私」多様性が持続のヒント

【パネルディスカッション】

- ・ 内海康雄様：舞鶴工業高等専門学校 校長
- ・ 小坪拓也様：企業版ふるさと納税コンサルタント／river認定講師／地方創生SDGsファンドレイザー
- ・ 江川 健次郎様：有限会社ウイルパワー 代表取締役
- ・ 浅田 慈照様：高野山真言宗 大師教会和歌山教区 三密教会長

- 後援：内閣府「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」

▼イベント詳細&お申込み▼

<https://pmi-japan.eventos.tokyo/web/portal/426/event/4456/>

【SDGs スタートアップ研究分科会 WEB サイト】

■SDGs スタートアップ研究分科会について

引き続き参加団体及び PMI 日本支部としての活動メンバーを募集しています。

詳細は下記のリンク先をご覧ください。

▼SDGs スタートアップ研究分科会 WEB ページ▼

https://www.pmi-japan.org/session/project/sdgs_startup.php

ご参照・問い合わせ先：PMI 日本支部 SDGs 担当(sdgs@pmi-japan.net)